

能登半島地震災害先遣隊報告

令和6年2月6日

1 派遣職員の業務について

○ 概要

令和6年能登半島地震の発災直後に、阪神淡路大震災時に支援のあった3市へ見舞金の贈呈と後発部隊のためにインフラ状況の確認と報告を行った。

【派遣期間】 令和6年1月4日(木)～1月8日(月)

【派遣場所】 羽咋市役所

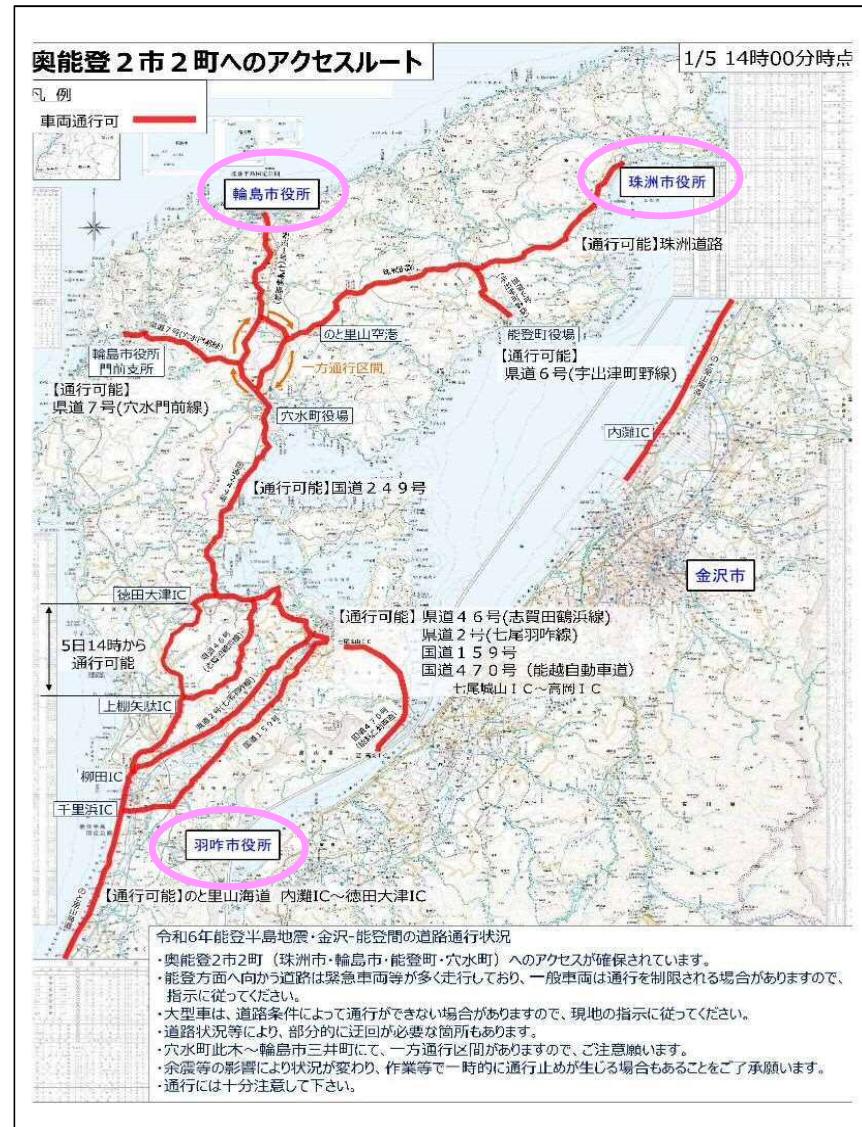
輪島市役所

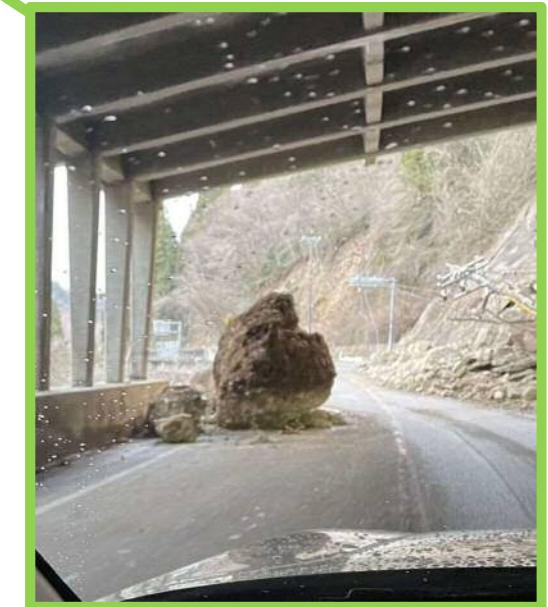
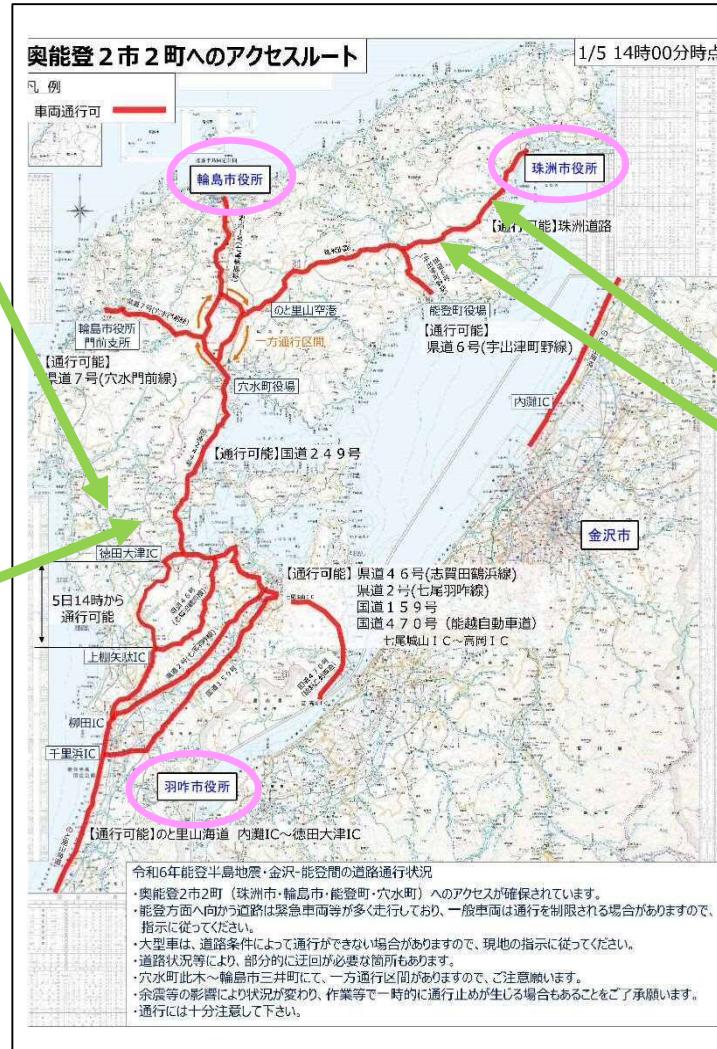
珠洲市役所

【派遣職員】 3名

【活動内容】 ▶各市長に見舞金の贈呈

▶インフラ全般（飲食販売、道路・トイレ・ガソリンスタンド）の報告





2 被災直後の被災地に行って感じたこと

・被災後の市役所は参集できた職員が1割程度しかおらず、災害対策本部が機能していない様子でした。

自分たちも同じような状況になると危機感を覚えました。

阪神淡路の際も最初に参集した職員の交代要員がおらず、倒れたこともあったようです。まずは一人でも多く、参集することが大事だと感じました。

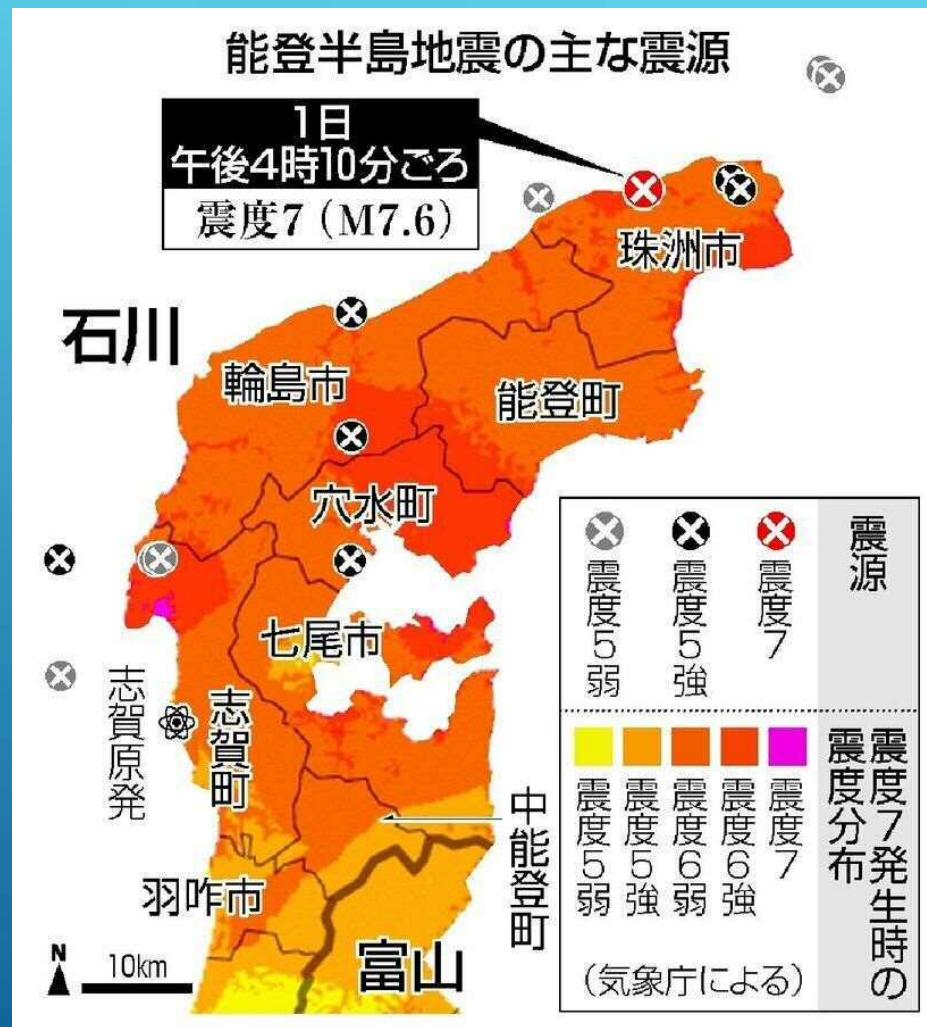
・災害時は平時に当たり前にあるインフラが使用不能になり、使えないことが多い。DX化を進めつつ、アナログ的に必要な情報は紙で印刷しておく等の準備も必要と感じた。



令和 6 年能登半島地震 緊急消防援助隊

令和6年能登半島地震【概要】

- ▶ 発災日時：令和6年1月1日 16時10分頃
- ▶ 震源：石川県能登地方
- ▶ 地震規模：マグニチュード7.6
(阪神淡路大震災7.3)
- ▶ 震源深さ：16キロ
- ▶ 最大震度：7（石川県志賀町・輪島市）



初動・派遣までの動き

- ▶ 1月1日（月）
 - ▶ 16：10 芦屋市 震度3
 - ▶ 18：05 芦屋管内パトロール中異常なし
 - ▶ 迅速応援は現段階ではなし（派遣職員の選定は実施）
 - ▶ 兵庫県航空隊については派遣
-
- ▶ 1月12日（金）
 - ▶ 17：00 芦屋市を含む兵庫県大隊の派遣が決定（日程は調整中）
1月15日（月）に派遣が決定される。

派遣隊員の選定（1次～3次共通）

- ▶ 派遣人数の規模により後方支援職員が必要
- ▶ 今回の能登半島地震では救急隊1隊3名の派遣となる

- ▶ 救急隊長：係長又は主任
- ▶ 機関員（運転手）：主任又は消防士長
- ▶ 救急隊員：消防士長又は消防副士長
- ▶ 共通：救急救命士資格・普通機関員以上（長距離移動のため）

緊急消防援助隊兵庫県大隊発足式

- ▶ 令和6年1月15日13:00兵庫県防災センター（三木市）
- ▶ 兵庫県下52隊182名集結



福井県消防学校（被災地到着前泊）

令和6年1月16日3時 気温1.9度
(最低気温0.4度) 積雪のため
2時出発⇒8時に変更



被災地までの道のり



柳田植物公園（ベースキャンプ地）到着

令和6年1月16日
16時到着
17時30分設営完了



奥能登広域圏消防事務組合消防本部

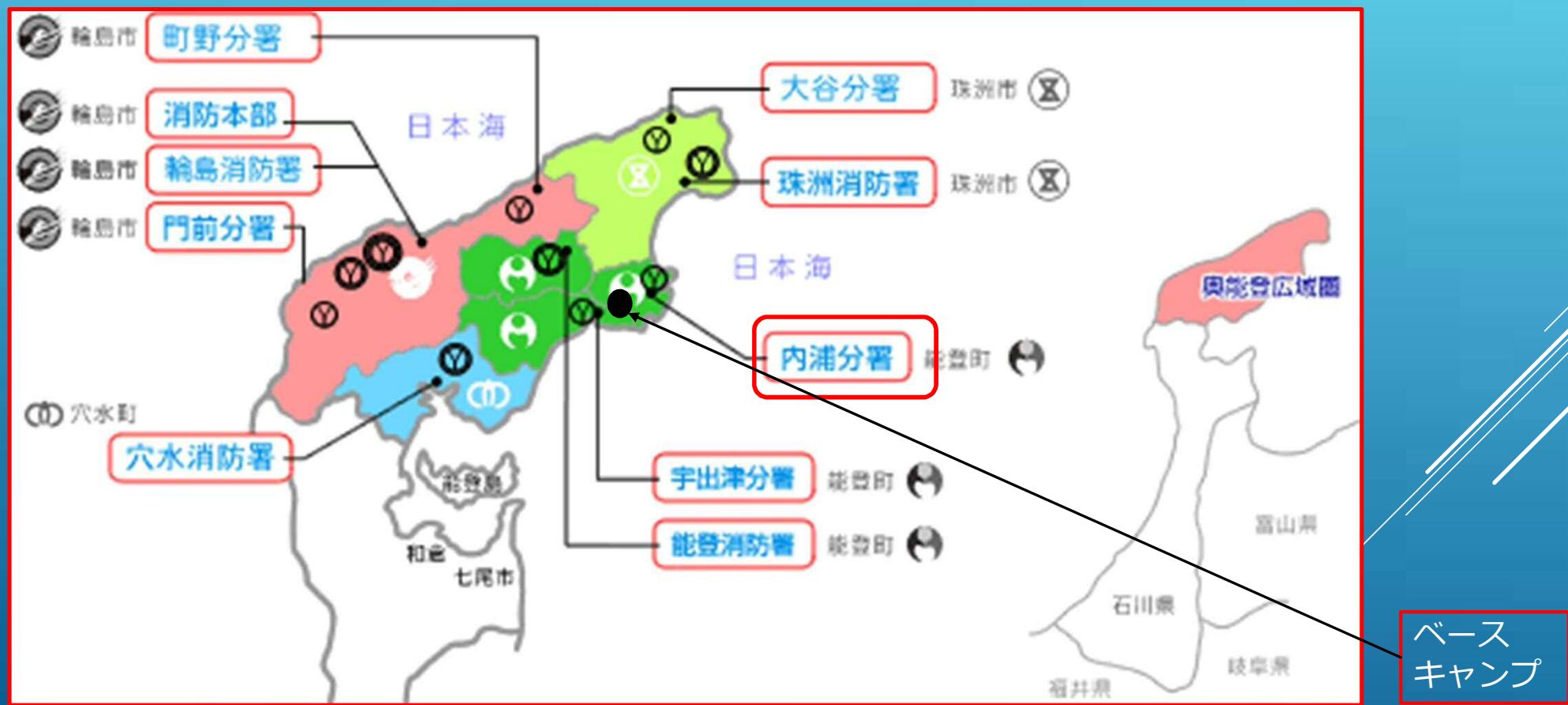
- ▶ 管轄人口 60,175人（令和4年12月31日現在）
- ▶ 火災件数23件（令和4年）
- ▶ 救急件数3,282件（令和4年）うち内浦分署212件



参考（芦屋市）
管轄人口93,825（令和5年1月1日現在）
火災件数13件（令和4年）
救急件数5,642件（令和4年）



奥能登広域圏消防事務組合消防本部（所在地）



救急出動

- 一般救急：2件
- 転院搬送：2件
- 傷病者搬送選定：2件（ヘリ輸送）



石川県防災ヘリ

柳田野球場
(臨時発着場)

↓
富山空港
(病院未定)



陸上自衛隊輸送機

柳田野球場
(臨時発着場)
↓
富山空港
(病院未定)



第2次派遣隊引継ぎ～第1次派遣隊解散式

- ▶ 第2次派遣隊 1月19日出発（前泊）～20日8時柳田植物園到着
- ▶ 引継ぎ実施（救急活動・資機材残数・終了後の報告関係など）
- ▶ 1月20日10時 第1次派遣隊解散式

大型バスにて人員輸送
1月20日19:30
芦屋市消防本部到着・解散

1月25日2次派遣隊解散
1月28日3次派遣隊解散（救急車含む）



今後の課題

- ▶ 派遣職員及び派遣車両の確保

芦屋市消防本部所有の救急車は現在 4 台（署所配備）+ 1 台（非常用）の 5 台保有しているが、救急件数の増加に伴い市内での対応が困難となることが予想される。

- ▶ 寒冷地での装備品

車両ではスタッドレスタイヤ+タイヤチェーン、職員にはアイススパイクの着用が必要な状況があった。（両方とも今回は装備携行していた）

【感想】

- ▶ 今回、派遣までの期間があったため、個人の非常食や防寒対策を十分に携えることが出来ましたが、発災直後での派遣では対応できなかつたかもしれません。
- ▶ 派遣する立場だけでなく、**芦屋市で災害が発生した場合**、個人の携行品（準備品）を今一度見直していただけたらと思います。

能登半島地震災害支援報告



令和6年2月6日

- ▶ 派遣職員の業務について
- ▶ 現地の状況
- ▶ 災害派遣を終えて感じたこと

1 派遣職員の業務について

(1) 概要

令和6年能登半島地震における対応について、チーム兵庫として県職員と各市町職員が
1月7日(日)から派遣。今回芦屋市はその**第5陣**メンバーとして避難所支援にあたる。

【派遣期間】 令和6年1月20日(土)～1月25日(木)

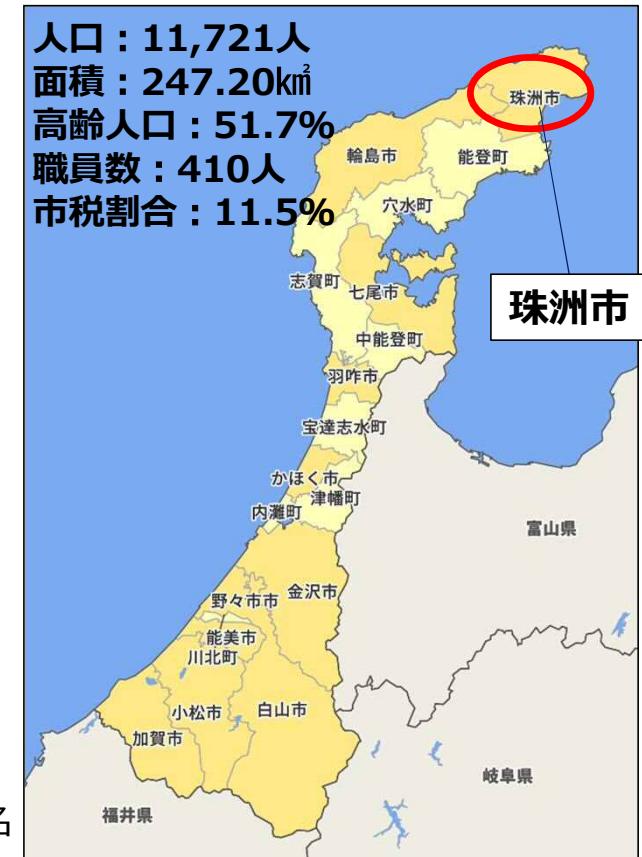
	人数	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26
		金	土	日	月	火	水	木	金
第4陣	12名	現地活動	現地活動	現地活動 引継	帰路				
第5陣	12名		出発	引継	現地活動 (避難所 3ヶ所)	現地活動 (避難所 10ヶ所)	現地活動 (避難所 8ヶ所) 引継	帰路	
第6陣	12名					出発	引継	現地活動	現地活動

【派遣場所】 珠洲市立健民体育館 (宿泊地 兼 物資集積所)

【チーム編成】 (総括チーム)兵庫県6名 (避難所支援チーム)芦屋市2名 明石市2名 豊岡市2名

【活動内容】 ▶各市町職員に割り当てられた避難所を巡回

- ▶避難所の責任者から、避難者数、ライフラインの復旧具合、健康状態、物資支援の要望等をヒアリング
- ▶ヒアリング内容を総括チームへ報告 (総括チームは避難所ごとに取りまとめて珠洲市災害対策本部へ報告)
- ▶避難所の責任者へ災害対策本部からの情報を伝達 ▶避難所へ物資の運搬 (メインは自衛隊による運搬)



1 派遣職員の業務について

【健民体育館の様子】

健民体育館



団体からの支援物資



個人からの支援物資



地区ごとの報告書ファイル



派遣職員の食事事情

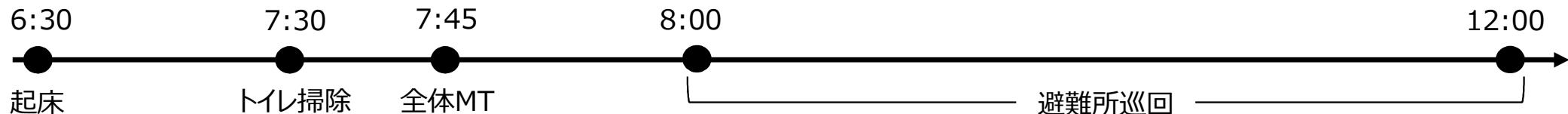


生活環境



1 派遣職員の業務について

(2) タイムスケジュール (AM)



- ・**8チーム**から構成（浜松市、福井県、兵庫県、神戸市、山梨県、千葉県、千葉市、熊本市）
- ・全体の総括を兵庫県が行う
- ・日々変化する避難所情報や交通状況を共有
- ・新たに被災者にヒアリングする情報があれば共有（例：電化製品の需要、未就学児・高齢者の人数など）

- ・各市町職員に割り当てられた避難所を巡回
- ・避難所の責任者からのヒアリング（避難者数、ライフラインの復旧具合、健康状態、物資支援の要望）
- ・災害対策本部からの情報の伝達
- ・物資の運搬（被災者が個別に要望した物資、自衛隊が物資運搬をしない義援物資）
- ・毎日のことなので、被災者の負担にならないよう無理のない範囲でヒアリングを行う



全体MTの様子



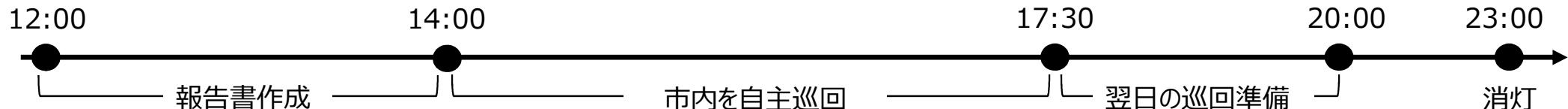
上戸小学校(大規模避難所)



被災者からの聞き取り

1 派遣職員の業務について

(3) タイムスケジュール (PM)



- ・県持込みの無線対応のパソコンで当日の避難所情報を入力、総括チームへ報告
- ・共通のエクセルファイルを日々更新していく
- ・総括チームは避難所ごとに取りまとめて株洲市災害対策本部へ報告

- ・担当内の避難所以外の場所や、担当外の地区を自主的に巡回・視察
- ・積雪に備え道路状況を確認
- ・情報収集

- ・本部が翌日の地区の割当を決め、LINEで共有
- ・過去のヒアリング内容の確認
- ・巡回のルートの確認



報告書作成の様子



被害が大きい地区(宝立地区)



漁港の様子(大谷地区)

2 現地の状況

(1) 珠洲市の被災状況(石川県災害対策本部員会議(2/2(金)16時) 資料より)

【人的被害】

	死者	行方不明者	負傷者		合計
			重傷	軽傷	
石川県	240人	確認中	312人	869人	1,421人
うち珠洲市	101人	0人	47人	202人	350人

※安否不明者14人 (うち珠洲市3人)

※災害関連死15人 (うち珠洲市6人)

【建物被害】

	住家 (棟)						非住家 (棟)	
	全壊	半壊	一部 損壊	床上 浸水	床下 浸水	小計	公共 建物	その他
石川県	4万9,429棟			6棟	5棟	4万9,440棟	192棟	753棟
うち珠洲市	2,422棟	1,305棟	1,806棟			5,533棟		

▶木造の古い家屋が軒並み倒壊している

▶沿岸部の家屋は1階部分がすっぽり筒抜けになっている。津波の影響と思われる

2 現地の状況

(2) 被災者の状況(石川県災害対策本部員会議(2/2(金)16時) 資料より)

【避難所・避難者】

	1次避難所		1.5次避難所		2次避難所(旅館・ホテル等)	
	開設数	避難者数	開設数	避難者数	開設数	避難者数
石川県	283ヶ所	8,029人	3ヶ所	257人	246ヶ所	5,178人
うち珠洲市	44ヶ所	1,441人	-	-	-	-

- ▶行政職員が配置された大規模な避難所（主に公立の小学校や中学校）に100人規模の1次避難者。大規模避難所はパーテーションで家族ごとに区分けされている。保管されている物資も配置図を作成するなどの工夫がある。また、炊き出しやお風呂の支援も行われている
- ▶集会所やビニールハウスなどに自主的な1次避難者。区分けされていない避難所がほとんど
- ▶食料や飲料水は充足。開いているスーパー・ドラッグストアもちらほら
- ▶各避難所にD-MATや赤十字、保健師が巡回しているため、健康面のケアは問題ない
- ▶場所によってはトレーラーハウスが設置され始めている

2 現地の状況

(3) ライフラインの状況(石川県災害対策本部員会議(2/2(金)16時) 資料より)

【電気・水道・道路】

	停電	断水	通行止め
石川県	約2,100戸	約4万戸	26路線60ヶ所
うち珠洲市	約750戸	約4,800戸	

- ▶幹線道路は段差やヒビ割れを碎石で埋めるなどして通行可能
- ▶生活道路は未復旧箇所が多い（倒壊家屋が道を塞ぐ、陥没等があっても通行規制や注意表示もされていない）
- ▶電気工事は全国から派遣された電気工事会社により復旧が進んでいた
- ▶水道工事がされている様子はなかった（給水車は全国から派遣されている）
- ▶通信は、docomoや楽天などのアンテナ車が各地に停められている
- ▶ほとんどの建物は被災鑑定済み
- ▶生活ごみ・し尿の収集は定期的に行われている
- ▶災害ごみは全くといついいほど回収されていない

2 現地の状況

(4) 現況写真



崩落した見附島



陥没した電柱(宝立地区)



隆起した海岸(高屋)



隆起した漁港(狼煙漁港)



崩落し擁壁だけ残った崖



津波によって
壁が破壊さ
れた家



放置された
道路の陥没
(各地)



地震・津波の痕跡(宝立地区)



養父市のランドリーカー(上戸小学校)



南あわじ市の
トイレカー



3 災害派遣を終えて感じたこと

- ・若手職員の災害派遣について
- ・被災地支援の方法
- ・復旧と復興、まちの未来は
- ・行政職員として、備えておくこと

3 災害派遣を終えて感じたこと

